



那賀川町中島付近工事のようす

一般国道55号阿南道路は、小松島市から阿南市における交通渋滞の緩和や交通安全の確保を目的とする事業です。平成29年度は、平成31年度的那賀川町中島から西路見町江川間の4車線化の完成に向けて、橋梁工事や改良工事を推進します。

## 国道55号阿南道路の整備



国道55号阿南道路 那賀川大橋付近4車線化完成イメージ図

# 特集 住みよいまちの実現に向けて ~社会資本の整備を推進~

市民の皆さまが生き生きと輝き、安全で安心して暮らすことができる「住みよいまち」の実現のためには、高速道路ネットワークをはじめ河川の治水・利水、農業用水の確保、地域医療の確立など社会資本の整備が欠かせません。本市は住みよいまちを構築するため、近隣自治体や各種団体とともに、国や県に積極的に社会資本整備の要望活動を行い、各種事業を推進しています。事業の進捗状況や要望活動の成果をご報告します。

## 道路

高速道路ネットワークは、災害発生時における地域の孤立化を防ぎ、迅速な救急・救援活動を支えるとともに、地域経済・産業の活性化に資する重要な社会資本です。地域の安心、活力の両面を支える「四国8の字ネットワーク」の一部として、四国横断自動車道（阿南～徳島東）や阿南安芸自動車道桑野道路・福井道路の整備が進められています。また、第1次緊急輸送道路の一般国道55号阿南道路において、那賀川大橋付近の4車線化等が進められています。

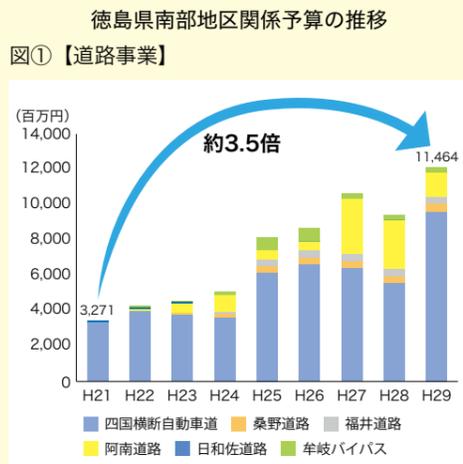
### 四国横断自動車道（阿南～徳島東）の整備

四国横断自動車道阿南～徳島東は、西日本高速道路(株)が事業中の徳島自動車道徳島東IC～徳島JTC間と接続することで、既に開通済みの徳島自動車道や高松自動車道と連結し、高規格ネットワークの形成と災害時の代替路としての役割を担うことを目的とする事業です。



羽ノ浦町岩脇付近工事のようす

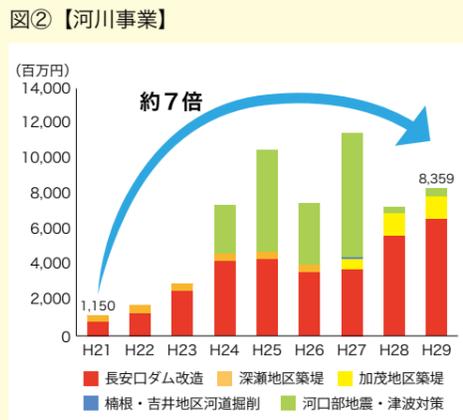
## 高速道路の無い地域の生の声を伝えるため、また那賀川流域の安全安心を担保するための要望活動



南海トラフ巨大地震などの大規模自然災害が発生した場合、基幹道路が寸断するなど、地域の孤立が懸念されています。平時は地方創生の礎となり、生産性を向上させる「活力の道」として、災害時には緊急輸送道路の機能を有する「命の道」として、高速道路ネットワークを整備していく必要があります。本市では、高速道路や河川整備など国が行う直轄事業の推進を図るため、阿南商工会議所を中心に各種団体等で組織した「阿南市高規格道路等建設促進期成同盟会」および「那賀川治水対策

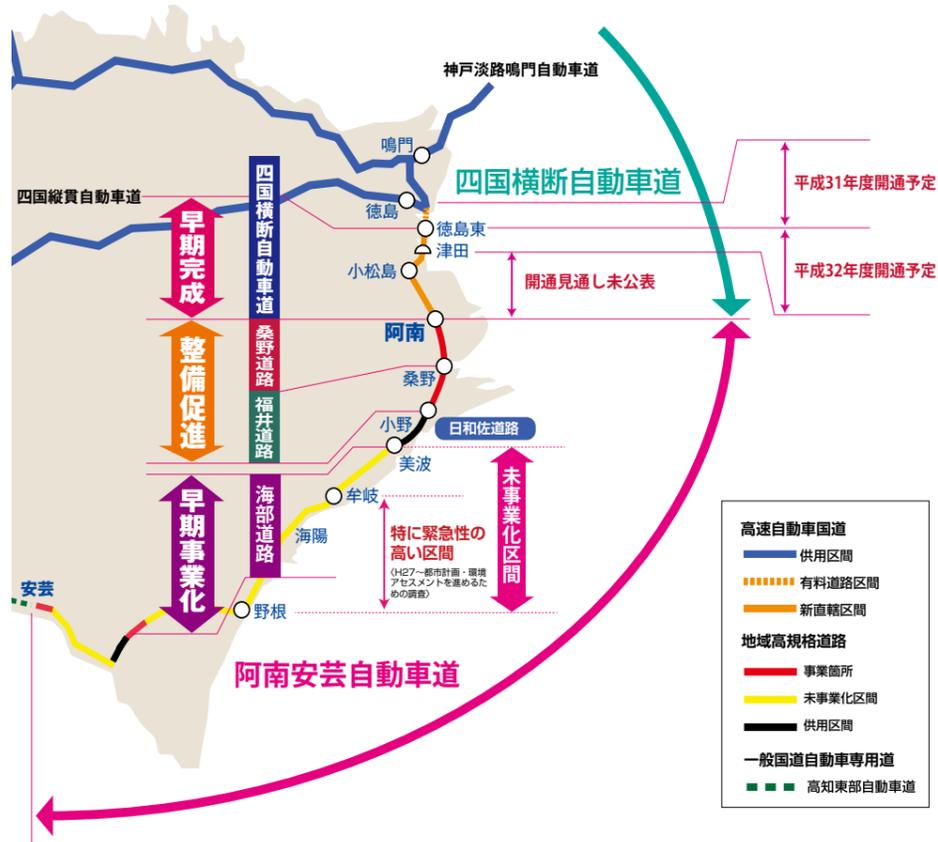


国土交通大臣へ要望



※H27で、「地震津波対策事業(全国防災枠)」制度が終了している。  
※注 道路、河川ともグラフに示した予算は当初予算、補正予算等は含まれていない。

厳しい財政の中、事業予算を確保 厳しい国の財政事情(平成29年度政府予算は約97兆円)により、公共事業費は減少を続け、今年度予算は約6兆円と、ピークであった平成9年度の約6割まで減少しています。そうした中、今年度の県南地域の道路関係事業予算は、事業推進を図るために必要な費用として、平成21年度の約3.5倍にあたる約115億円が確保されています。(図①) また、今年度的那賀川流域の河川事業予算は、事業の推進を図るための予算が確保され、平成21年度の約7倍の約84億円となっています。(図②)



「安心」と「活力」を支える 四国8の字ネットワークの整備

阿南安芸自動車道 桑野道路・福井道路の整備

桑野道路・福井道路は、高規格幹線道路の空白地帯を補完し、四国8の字ネットワークを形成する阿南安芸自動車道(地域高規格道路)の一部であり、四国横断自動車道と連絡する自動車専用道路です。早期の工事着手に向け、調査設計および用地買収を推進します。

# 河川

来るべき南海トラフ巨大地震等に備え、東日本大震災を教訓として、那賀川および派川那賀川（桑野川）の河口部において、堤防嵩上げや液状化対策等が進められています。また、台風や近年多発傾向にあるゲリラ豪雨等による洪水、浸水に備え、長安口ダム改造事業や加茂地区における築堤事業（那賀川床上浸水対策特別緊急事業）のほか、河道の掘削、堤防の安全性を高める対策などが進められています。（画像提供：国土交通省）

## 那賀川流域の安全・安心をめざして

那賀川水系の河川整備にあたっては、「安全で安心できる那賀川水系の未来が拓ける川づくり」を基本理念に、関係機関や流域住民との情報の共有・連携を図りつつ、治水・利水・環境に関わる施策を総合的に展開することとし、平成28年11月に整備内容を追加変更した「那賀川水系河川整備計画」に基づいて実施されています。

那賀川水系では住民の安全安心を確保することを目的に堤防の整備・補強、河川の維持管理、長安口ダム改造により洪水を安全に流下させる対策が推進されています。また、南海トラフ巨大地震対策として河口部の堤防などの耐震・液状化対策に対しても推進されています。

## 長安口ダム改造事業

長安口ダムは、ダム下流の洪水被害を軽減する洪水調節や水力発電、農業・工業用水取水の安定化などを担っています。

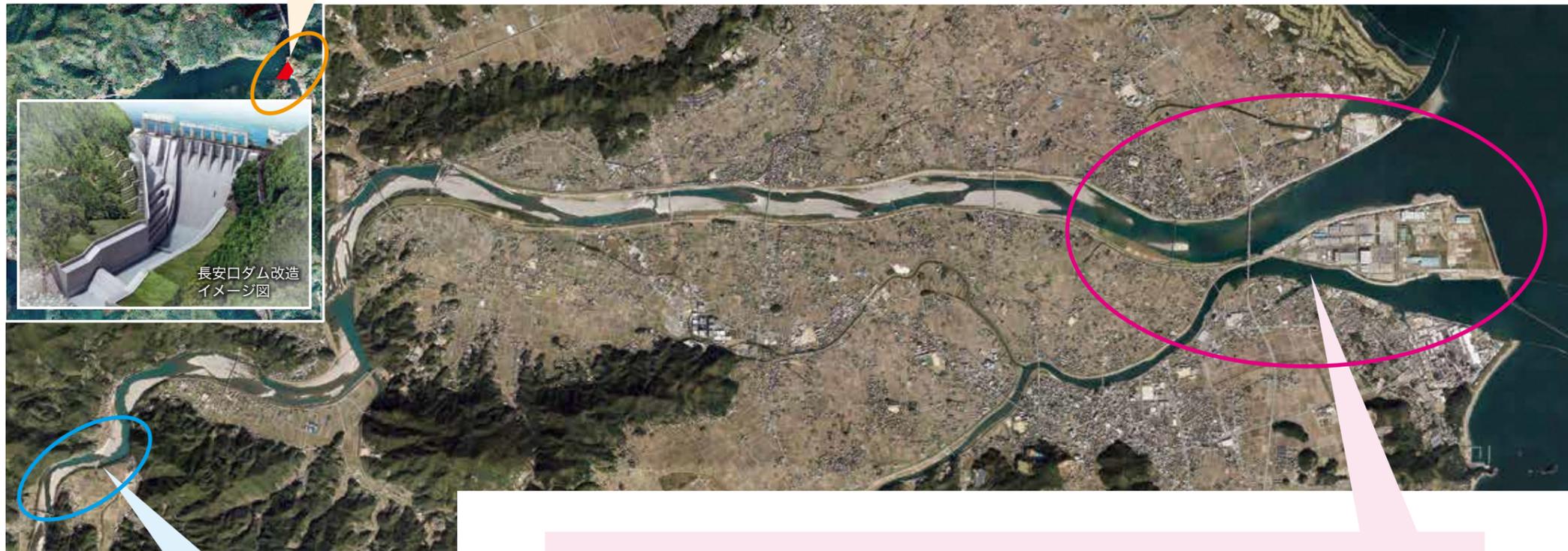
同ダム改造事業は、那賀川流域の洪水被害を軽減するとともに、流水の正常な機能を維持するため、平成19年度にスタートしました。

平成29年度は、洪水調節能力向上のための放流設備（クレストゲート）増設工事、下流河川環境改善のための選択取水設備の新設工事、貯水池機能を維持するための堆砂除去工事が実施されます。

## 流域の治水・利水の安定化に向けて

那賀川下流域では、昭和31年の長安口ダム完成により水供給が確保されたことから、企業進出が促進されました。

近年では、多雨年と少雨年の年降水量差が大きく、気象変動の影響により、平成17年、19年、21年、23年、25年、29年と記録的



長安口ダム改造イメージ図

な渇水が頻繁に発生しています。また、流域の治水・利水の中心を担う長安口ダムの堆積土砂は、建設当時に想定した堆砂量の約3倍に達し、堆砂量の増加がダム貯水池容量を維持している課題となつてい

ます。特に平成17年の渇水では、68.5億円にも及



国土交通副大臣へ要望

ぶ工業被害額となったため、国へ向けて、長安口ダム改造の早期実現を強く要望しています。こうした中、将来にわたり貯水池機能の保全を行うため、下流土砂還元を前提とした適切な排砂管理に必要な、堆砂除去土砂運搬設備（ベルトコンベア等）の整備を行うことが平成28年に決定されています。

長安口ダム改造事業が、計画通りに事業を進められ一日も早い完成がなされるとともに長期的堆砂対策を推進していただくために、下流域の地元として、各関係機関へ積極的な要望活動を続けています。

## 那賀川、桑野川河口部・南海トラフ巨大地震・津波対策

南海トラフ巨大地震等の発生が予想されており、液状化による堤防の沈下や津波による浸水被害の軽減を図るため、那賀川・桑野川において、堤防の液状化対策、嵩上げなどが推進されています。

「地震・津波対策事業」の対策必要延長11・1キロメートルのうち、那賀川および桑野川の延長計約9・4キロメートルの対策が、平成28年度末までに完成しています。

平成29年度は、引き続き、堤防の液状化対策、堤防の嵩上げなどが実施されます。



堤防の嵩上げ



堤防地盤の液状化対策

## 那賀川床上浸水対策特別緊急事業



加茂地区築堤イメージ図

加茂地区は、毎年のように浸水被害が頻発する無堤地区であり、特に平成26年8月台風11号では床上・床下浸水等の甚大な被害が発生したことから、那賀川からの氾濫に伴う家屋浸水被害の解消を図るため、築堤事業が平成27年度から実施されています。

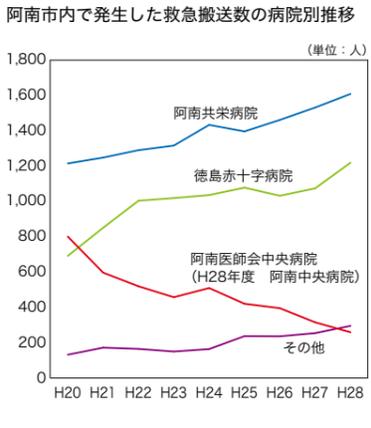
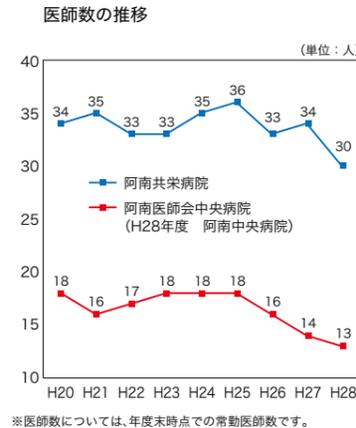
平成29年度は、用地買収、築堤護岸工事などが推進されます。

# 地域医療

地域医療が大きな危機に直面している今、医療を提供する側の病院だけでなく、受ける側である住民、それを支える行政が相互に協力し、地域全体で地域の医療を支えていくことが必要となってきています。本市は、地域医療体制の充実・強化を図るため「阿南医療センター」の設立を支援しています。

**阿南市民および県南部地域住民にとって安心できる地域医療体制の確保**

平成25年11月、将来にわたって、安全・安心で質の高い医療を確保するため、徳島県厚生農業協同組合連合会（JA徳島厚生連）と阿南市医師会および本市の三者は、新病院「阿南医療センター」の設立に向けて、協議を開始し、本年4月から建築工事が始まり平成31年春の開院をめざしています。



**協議会の要望活動の成果**

協議会 は、医療センターの財源確保のため、県知事に県知事、財務省をはじめ、厚生労働省、地元選出国會議員等へ要望活動を行っています。

県においては、医療センター整備事業を県の「地域医療介護総合確保基金事業計画」に盛り込んでいただくとともに、国に対し、新病院財源確保のために積極的に取り組んでいただいています。



厚生労働副大臣へ要望

**JA徳島厚生連が「阿南医療センター」を設立するための財源を官民協力により確保**

本市は、医療センター設立にあたり、JA徳島厚生連において多額の財源が必要であることから、国・県の財政支援の確保を図るなどのために、市内の各種団体および関係機関ならびに隣接自治体に広く呼び掛けて、「阿南市地域医療確立対策協議会」を立ち上げていただきました。



阿南医療センター外観イメージ図

また、平成28年10月に協議会が厚生労働省へ要望した際には、厚生労働副大臣からは、「国の施策に沿った全国のモデルケースとなるような新病院の設立であると認識しており、今後も精一杯の支援をしていきたい」との力強い言葉をいただきました。こうした要望活動が実を結び、医療センター整備事業は、平成27年度10億円、平成28年度も10億円と県の要望額どおりの交付金をいただくとともに、今年度は15億円の要望をし、3年間で総額35億円の交付金の確保をめざしています。協議会が、官民一体・地域総ぐるみで医療センター財源確保のための要望活動をしていただいていることから、新病院整備に対する国・県の深いご理解を得、大きな成果をあげています。

# 農地防災

阿南市、小松島市にまたがる「那賀川地区」では、平成8年から、農林水産省が国営総合農地防災事業を実施しています。同事業は、農地や農業用施設に対する災害を未然に防止し、農業用水の水質保全を図るため、南岸堰の補修と水路の新設・改修などを行う事業です。

## 那賀川地区 農地防災事業の概要

徳島県南東部の一級河川那賀川の下流域に展開する那賀川地区は、県内多数の農業地帯で、水稲を中心に、にんじん、きゅうりなどを組み合わせた農業経営が展開されています。

この地域の農業を支える取水堰や水路は、昭和13〜38年度に国や徳島県等によって整備されてきましたが、老朽化によって安全性や機能が低下し、都市化の進展によって生活雑排水が水路へ流入し、水質が悪化しています。

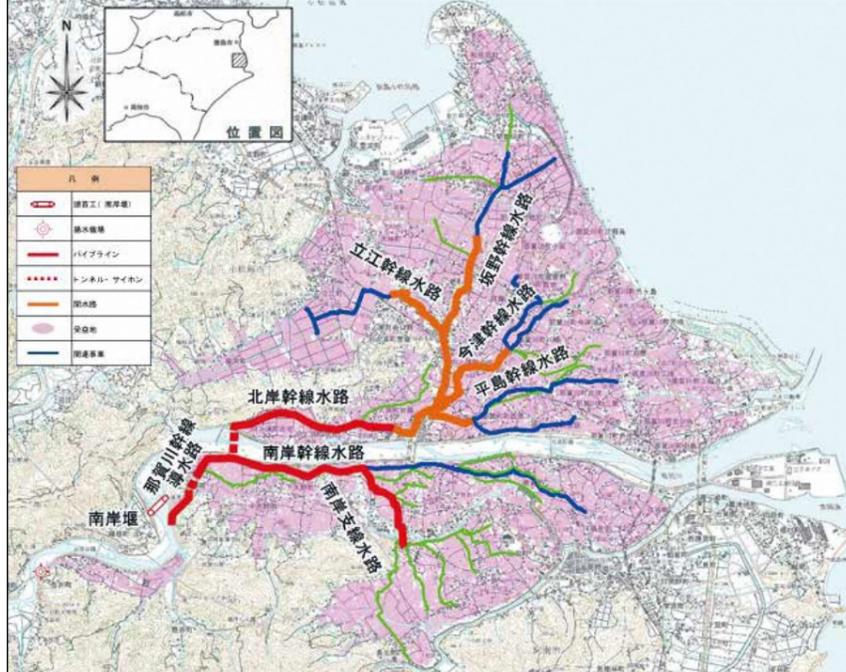
国営事業の実施により、これらを改善することで、災害を未然に防止し、安定的にきれいな農業用水を約3000ヘクタールにも及ぶ農地に運び、農業生産の維持や農業経営の安定化に貢献しています。

**事業完了へ 向け工事も佳境に**

本事業は平成33年度の完了に向けて、工事が佳境に入っています。

今年度は、南岸堰の補修工事、那賀川北岸の開水路（坂野、今津、平島）の一部区間の補修工事や南岸の管水路工事等が計画されています。

特に注目されるのは、63年前に完成した南岸堰の初めてとなる本格的な補修工事です。南岸堰は地域の農業にとって最も重要な施設の一つです。南岸堰によって那賀川の水がせき上げられ、取水することによって、地域に張り巡らされている水路に農業用水が安定的に運ばれていきます。さらに、国営事業で南岸堰の下流にある北岸堰を南岸堰に統合し、地域の農業用水のほぼす



べてを取水する施設となるからです。

また、南岸堰に5カ所ある魚道については、鮎等の遡上・降下に配慮した補修が行われます。

その南岸堰の工事は、今年11月から始まり、工事は左岸側（那賀川の北岸側）から中央部、右岸側へと3期に分けて行われます。今年度から来年度にかけては、左岸側の約3分の1が補修される予定です。そ



南岸堰改修後イメージ図



南岸堰改修前

の後、南岸堰のすべての改修が完了するのは、平成32年度の見通しです。

なお、市では小松島市と共に、農林水産省および財務省に提言活動、また国會議員に対しても、要望活動を積極的に行っています。その結果といたしまして、事業予算、事業所人員もそれぞれ増加いただき、本事業の完了に向けて順調に進んでいるところ です。